

緩和医療科 研修教育プログラム

当科における緩和医療は、生命を脅かす疾患のみならず、慢性的な疾病やロコモティブシンドローム・フレイルを対象とし、患者および家族の日常生活の質の向上を目標に、様々な専門家から構成されるチームによって行われるケアを意味する。そのケアは、患者と家族が可能な限り人間らしく快適な生活を送ることができるように提供される。

【研修の一般目標】

- 1) 緩和ケアの理念を理解する。
- 2) 痛みや苦痛を全人的苦痛として理解し、身体的だけでなく、心理的、社会的、スピリチュアル/実存的に把握することができる。
- 3) 緩和医療科病棟および緩和ケアチームにおいて、チーム医療の一員としての立場を理解し行動する。
- 4) 基本的な内科・外科疾患など、患者の背景にある病態に関し、Evidence-Based Medicine を実践し、英語文献検索を行い、最新情報を理解する実力を涵養する。

1. 前期研修

1) 技術面

- ① 病歴聴取(発症時期と様式・痛みの部位・性状・程度・持続期間・推移・増悪軽快因子など)
- ② 身体所見を適切にとる。
- ③ 痛みを適切に評価する。
- ④ 鎮痛薬、鎮痛補助薬の薬効機序を正しく理解し、処方提案をする。
- ⑤ 薬物の経口投与や非経口投与(持続皮下注、持続静注、坐薬など)を正しく行う。
- ⑥ せん妄評価と基本的な対策をとることができる。

2) 知識面

- ① 痛みの定義について述べることができる。
- ② 痛みのアセスメントについて具体的に説明することができる。
- ③ 慢性疼痛の機序別の分類について説明することができる。
- ④ がん疼痛の薬物療法に関するガイドラインについて具体的に説明できる。
- ⑤ 神経障害性疼痛について、その原因と痛みの性状、治療法を述べることができる。
- ⑥ 痛みの非薬物療法について述べることができる。

2. 各科ローテーション(希望者のみ)救急科、リハビリテーション科、リウマチ膠原病科など相談に応じて対応

3. 後期研修

- 1) 痛み以外のがん末期の諸症状を理解し、適切な薬物投与や全人的ケアを行う。
 - ・ 悪液質(食欲不振、倦怠感、るいそう、体力低下)
 - ・ 消化器症状(腸閉塞、悪心嘔吐、腹水、腹部膨満感、吐下血)
 - ・ 呼吸器症状(呼吸困難、咳、喘鳴、胸水)
 - ・ 精神症状(せん妄、不眠、傾眠、混乱、不穏、高カルシウム血症、肝性脳症)
- 2) 鎮静、輸液について正しく理解し、実践する。
- 3) 患者・家族への病状説明、インフォームド・コンセントの実践
- 4) 家族のデスエデュケーションの実践
- 5) 地域連携の実践(在宅医療・看護導入までの道筋を適切につけることができる)

当科がめざす緩和医療学の学問体系

